

リード選びの苦勞から解放される喜び

「このリード、  
もう3年も  
使ってます！」レジェール・リードで  
今使っている  
マウスピースやリガチャーとの  
ベストマッチを見つければ、  
リード選びの苦勞は  
もう過去のもの……  
レジェール嫌いの人こそ  
読んでみてください！葦のリードを買っても買ってもハズレばかり。  
そんな時にシグネチャーが出て「これはいける！」と。——雲カル(雲井雅人サククス四重奏団)  
の皆さんは、早くからレジェール・リー  
ドを使い出して話題になりましたね。林田 最初に使い始めたのが、バリトン  
の西尾(貴浩)さん。次がテナーの僕。  
その後アルトの佐藤(渉)君とソプラ  
ノの雲井先生が使い始めました。雲井先  
生はその後、葦のリードに戻りました  
けども。

——どんなきっかけで？

林田 僕は何しろ当時、リード難民だっ  
たんです。葦が不作の年だったようで、  
買っても買ってもハズレばかり。ありと  
あらゆるリードを試しても、繊維が強ず  
ぎて固いバサバサした音にしかならない。  
そんな時にレジェールの「シグネチャー  
(Signature)」が出て、吹いてみたら「こ  
れはいける！」と。それで思い切ってテ  
ナーからレジェールに乗り換えたのが最  
初です。音の雑味成分が  
極端に少ない

——何が良かったんですか？

林田 一番気に入ったのは、音の雑味成  
分が極端に少ないことです。もともと僕  
は、そうした雑味を排除していきたくい  
タイプだということもあった。レジェールは、倍音が強く出るような  
響きではなく、基音がどっしりと鳴る感  
じのリードで、それが自分の音色感と合っ  
たんですね。葦のリードにありがちなキ  
ンキンした成分が少なく、とても音が落  
ち着きます。オーケストラの仕事で「展覧会の絵」や「アルルの女」などをレジェ  
ールで吹いたら、木管楽器の人たちに「音  
が溶け合ってます、すごい」と褒めてもら  
えました。

——モワットした音にはならない？

林田 それはリードじゃなく、奏法の問  
題。リードに頼って音の輪郭をはっきり  
させるのではなく、僕は自分の奏法で音  
の輪郭を作りたい。そのためには、ニュー  
トラルな音の状態で出来るだけ音に雑味  
がない方がありがたいんです。葦のリー  
ドだと、どう吹いても音に雑味が混じる  
感じがします。——高次倍音が欲しいタイプの人に  
はレジェールは合にくいということど  
うですか？林田 いえ、これはもちろん人にもより  
ますし、どんなマウスピースを使ってい  
るかにもよります。マウスピースによっ  
ても音に雑味が混じるものがありますの  
で、自分のマウスピースとの相性で結果  
的に合う合わないの問題になると思いま  
す。もし雑味成分ゼロのマウスピースで  
レジェールを使い、それでも出す音に雑  
味成分が欲しい、というような人には合  
わないかも知れませんが。——クラリネットでは、特にバスク  
ラリネットなどの低音楽器でレジェール  
との相性の良さがいち早く認められまし  
た。雲カルでも最初に使われたのはバリ  
トンの西尾さん……。林田「レジェールは、大きい楽器の方が  
より向いているよね」とみんな言います。  
リードの面積が大きいと振動のノイズが  
大きくなるのに、レジェールの場合



Kazuyuki Hayashida

# 林田和之

●サクソフォン奏者

尚美学園短期大学を経て東京コンセルヴァトアール尚美ディプロマコース修了。第2回アドルフ・サクソ国際コンクール第6位。第16回日本管打楽器コンクール第1位。NHK-FM「FMリサイタル」、「ベストオブクラシック」に出演。ソロCDに「Lessons of the Sky」があり、メンバーである雲井雅人サクソ四重奏団のテナー・サクソフォン奏者としても7枚のCDをリリース。オーケストラ内のサクソフォニストとしては新日本フィルハーモニー交響楽団、サイトウキネン・オーケストラ、群馬交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団からのファーストコールを受けるほど信頼も厚く、また作曲家・久石譲のコンサート、レコーディング、ツアーにも多数参加。主宰する「フェロー・サクソフォン・カルテット」が青山財団より「バロックザール賞」を受賞。尚美学園大学、東京ミュージック・メディアアーツ尚美ディプロマコース講師。最近では宅録を趣味にしている（YouTube【林田和之】で検索）。



今はアメリカンカットを中心に使い、マウスピースもそれに合わせて新しく替えた。



シグネチャーは肉厚が薄めで、リガチャーとのフィッティングに要注意。アメリカンカットは肉厚が厚めなのでフィットしやすい。



右がアメリカンカット、左がシグネチャー。アメリカンカットの肉厚は厚い。

イズが少なく、太くてしつかりとした音になるからそうなんでしょうかね。

——ダイナミックスの点でも過不足なく？

林田 まったく問題ないどころか、小さい音ではどこまでも小さくしていきます。葦のリードだと、ちよつと硬めのリードでは、クラリネットのように音を小さく絞って行きたいときに上手く行かないことがありますが、レジエールだと超安

心して吹けますね。

——レジエールの最大の長所はリードが変化しないことだといわれますが、この点は評判どおりですか？

林田 それを一番実感するのは、梅雨や季節の変わり目の時期ですね。葦のリー

ドだと、湿度の高い時期からカラッと乾いた時期に移行するようなとき、リードが反ってバサバサな感じになっちゃうんですけど、レジエールの場合はそれが全くない。

——と言いながらも、仲間うちでは、夏は硬めのリード、冬は柔らかめのリードを選ぶという人は多いんです。口の中に入れて温まれば季節に関係なく同じだと思うのに、実際問題、夏と冬では硬さの感じが変わる。夏は硬めのリードでないと柔らかく感じてしまうとか、冬は夏に良かったリードが硬く感じられるとか……。だから「夏用」と「冬用」のリードを用意する人は多いですね。

それと以前、雲カルのレコーディングでホールの照明が暑かったとき、リードが柔らかく感じられて苦労しました。ただでさえレジエールのテナー用リードは柔らかめに設計されているようなので

……。

——そうなんですか？

林田 テナーだけなぜか柔らかめなんです。よ。モニターしたプレイヤーのマウスピースが影響したのかどうか？ だから、録音の時は氷水にリードを浸し、ローテーションして使いました。テナー以外のリードでも、もし柔らかめに感じられるようになったら「冷蔵庫に入れて一度冷やして使う」という人もいます。

オーケストラの仕事で「音が溶け合う」と褒めてもらえた。木管の人たちに「音が溶け合う」と褒めてもらえた。

レジェールに合わせる  
マウスピースを選んで!

——レジェールといえども、長い目で見て状態が変化するリードもあるという事ですか。

林田 実際は、最初と全く変わらないリードもあれば、少しだけ柔らかくなったと感じるリードもあります。柔らかくなったリード用に、僕は専用のマウスピースを1個用意しています。

——リードに合わせてマウスピースを用意するというのは普通とは逆ですよね。

林田 レジェールの場合は、レジェールに合うマウスピースを選ぶことをまずお勧めしたいですね。葦のリードの場合は、リードにとかく個性差があり、時間によって変質しますから、マウスピースを基準にしてリードを選ぶしかない。

——ところがレジェールは、ほぼ安定していると言えるほど変化の少ないリードですから、それに合わせてマウスピースを選んだ方が得策だと僕は考えます。今使っているマウスピースにレジェールが合わないとしても、レジェールに合うマウスピースはきっとある。自分の好みに合うそうしたマウスピースを見つけることが出来れば、葦のようにリードを選ぶ苦労から解放されて、1年、2年、3年と変わらずに楽に吹き続けられるセッティングが手に入るわけですから、これは魅力ですよ。

ただし、レジェールにも中には状態が変わるリードがあるのも確かなので、少

し柔らかく感じたリード用にも1個マウスピースを用意しておけばよい。そうしたセッティングが別であれば、通常よりも楽に吹きたいと思ったり、もしかしたら冬場などには柔らかいリードの方が合うかも知れない。そんな選択肢も拡がるわけですよ。

——林田さんがいまお使いのマウスピースは?

林田 いろいろ変遷を経て、今はセルマーの「コンセプト」です。やや抵抗があるマウスピースで、レジェールのリードは3番とか2・75番。

実は今どきのマウスピースは、リードをセットするテーブルの真ん中がやや凹んでいるんですね。一説によると、葦のリードは使っているうちに膨張するから、テーブルが真つ平らだとびったり接触しなくなる。それでわざと真ん中を凹ませているんだとか。ところがレジェールは膨張しませんから、テーブルは真つ平らの方が相性がよいんです。だから僕は、テーブルが凹んだマウスピースでレジェールを使う場合は自分でテーブルを真つ平らに削り直しています。

セルマーのコンセプトも、出た当初はフラットテーブルでしたけど、今出ているものは凹んでいる。もともと重めに作ってあるマウスピースなので、音がもつさりし過ぎるのを嫌い、ピリツとした雑味が入るようにテーブルを変えたんじゃないかと。そうするとレジェールのぬめつとした音の良さが無くなるので、僕はテーブルをフラットにリフェイスしています。レジェールのぬめつとした音が嫌だとい

う人は、逆にテーブルが凹んでいることでピリツとした音になりますから良く感じる人がいるかも知れません。

——銀メッキの楽器を使っているってしゃるのは、やはりレジェールとの相性の良さから?

林田 ヤマハの純銀のネックがとても楽に軽く吹けるネックで、レジェールや自分のマウスピースとの相性が抜群だったんです。息の効率がすごく良くて、楽に吹けて暗い音が出せるんですよ。おかげでレジェールとマウスピース、リガチャー、ネックのベストの組み合わせが完成した。楽器を銀にしたのは、僕らの世代、チェッカーズの藤井尚之さんへの憧れもあって……(笑)。銀にした方が暗くしつかりした音を出せると思っ

たし、息も冷房の冷気のようにスーンと下に流れていく。いま自分が欲しいのはこの感じだと



アメリカンカット



シグネチャー



クラシック

レジェール・リード(※価格は税込)

●アメリカンカット

アルトサククス(強度: 1.5~4 / 0.25刻み) ..... ¥4,620  
テナーサククス(強度: 同上) ..... ¥4,950

●シグネチャー

ソプラニーノサククス(強度: 2~4 / 0.5刻み) ..... ¥4,620  
ソプラノサククス(強度: 2~4 / 0.25刻み) ..... ¥4,400  
アルトサククス(強度: 2~4 / 0.25刻み) ..... ¥4,400  
テナーサククス(強度: 2~4 / 0.25刻み) ..... ¥4,730  
バリトンサククス(強度: 2~3.5 / 0.25刻み) ..... ¥4,840

●クラシック

ソプラノサククス(強度: 2~3.5 / 0.5刻み) ..... ¥3,300  
アルトサククス(強度: 2~3.5 / 0.5刻み) ..... ¥3,300  
テナーサククス(強度: 2~3.5 / 0.5刻み) ..... ¥3,520  
バリトンサククス(強度: 2~3.5 / 0.5刻み) ..... ¥3,630  
バスサククス(強度: 2~3.5 / 0.5刻み) ..... ¥3,850

※アメリカンカットのソプラノサククス用(税込¥4,620)  
バリトンサククス用(税込¥5,060)が近日発売予定!



**ぜひ試してみたい  
アメリカンカット**

——レジェールから最近「アメリカンカット (American Cut)」が出ましたが、これはどうですか？

**林田** いま使ってます。と言うより、今はテナーもアルトもアメリカンカットがメイン。ジャズ用に開発されたト書いてありますが、クラシックにもすごく良い。

僕の場合、少し暗い音の方向に行きすぎて、もう少しピリッとした葦のよくな成分が欲しいと思った時にこれが発売され、試してみたら本当にピタリはまりました。アメリカンカットは、

レジェール嫌いの人も振り向かせる魅力があると思います。レジェール独特のぬめつとした感じだけでなく、ピリッと、パリッとした明るめの要素もある。吹奏感も軽く感じられます。裏返して言えば、シグネチャーはちょっと重めのリードなのかもしれない。軽やかさを求めるとしたら、アメリカンカットをぜひ試してみたいです。

——硬さはシグネチャーと同じ？

**林田** 一緒ですね。同じ番号を選んでいいと思います。

——腰は強く感じられる？

**林田** 音が明るくなると腰はなくなるはずなのに、腰がきちんと残っている。先端が柔らかくて振動しやすいのに、腰があつて粘るといふか。シグネチャーと厚さを比べてみると、アメリカンカットの方が厚いん

**アメリカンカットはレジェール嫌いの人も  
振り向かせる魅力があると思う。**

ですよ。それとも関係しているかも知れない。

——曲や状況によってシグネチャーと使い分けているのですか？

**林田** 使い分けてます。このシールが貼つてあるリードはシグネチャーで、もう3年も使い続けてます。

——お弟子さんにもレジェールを勧めていますか？

**林田** 葦のリードの変質についていけないかったり、葦のリード調整に自信がない人でリードに苦労したくないという人には勧めます。最初はまず、レジェールに合うマウスピースを選ぶことから始めます。その労力は、葦のリード選びの苦労を考えればかける価値のあるものだと思えますね。

——レジェールに合うマウスピースをどのように選んで行くのですか？

**林田** まずレジェールを3枚くらい購入

し、今使っているマウスピースで吹いてみます。その中で、ベストとは言えなくても感触が一番良いリードで、新しいマウスピースを選んでいく。きっとそのリードにぴったりはまるマウスピースが見つかると思います。慣れて来れば、レジェールで選んだマウスピースは葦のリードでも絶対に合います。これは保証します。

生徒の音づくりで最初の難関は、リード選びなんです。そんなとき、まずはレジェールで音出しをして、しばらく吹いて慣れて来たら、今度は葦のリードでそれと同じ吹き心地になるものを選びたい、削り方を教えたりするのもアリだと思います。もちろんレジェールに乗り換えてしまう人もいます。

いずれにしろ、安定したリードを一度体験してみるとはどんな人にもメリットは大きいと思います。

